U.S.Indicators

米国　冬の嵐が襲来も景気の堅調さ維持（18年１月ＰＭＩ：速報値）

：2018年1月25日（木）

～サービスが低下も製造業は一段の上昇～

第一生命経済研究所　経済調査部
桂畑 誠治
03-5221-5001

１月の総合ＰＭＩは小幅低下も比較的高い水準を維持

18年１月の米国総合購買担当者指数（ＰＭＩ）の速報値は、53.8と前月比0.3%ポイント低下した。製造業が55.5と前月比0.4%ポイント上昇し力強さを増す一方で、サービス業が53.3と前月比0.4%ポイント低下する形で、経済活動の若干のスピード調整が示された。ただし、冬の嵐の襲来にもかかわらず、総合ＰＭＩは比較的高い水準を維持しており、景気の堅調持続を示唆している。

製造業では、雇用が低下したものの、生産、新規受注、在庫が上昇した。寄与度をみると、入荷遅延が前月比▲0.21%ポイント、雇用が前月比▲0.13%ポイントの押し下げ寄与となった一方、在庫が前月比＋0.27%ポイント、新規受注が前月比＋0.23%ポイント、生産が前月比＋0.11%ポイントの押し上げ寄与となり、全体で0.4%ポイント上昇した。新規受注は、内外需要の拡大に伴い輸出受注、国内受注が押し上げられた。

一方、サービス業では、新規受注が前月から上昇した一方、活動指数、雇用が低下した。見通しでは、将来の活動指数は上昇、依然高い水準を保っており、楽観的な予想が維持されている。

外需関連では、１月の日本製造業ＰＭＩが54.4、ユーロ圏製造業ＰＭＩが59.6とともに高水準を維持し、米国の輸出拡大ペース加速を示している。

雇用動向を示す雇用指数は、非製造業、製造業の低下によって、前月から鈍化したが、高い水準を維持しており、１月も民間雇用者数は堅調な増加ペースを維持していることを示している。

インフレに関しては、仕入価格、販売価格がともに前月から上昇したが、販売価格よりも仕入価格の上昇幅が大きくコストプッシュ圧力となっている。販売価格の小幅上昇は、消費者物価の緩やかな上昇を示唆している。

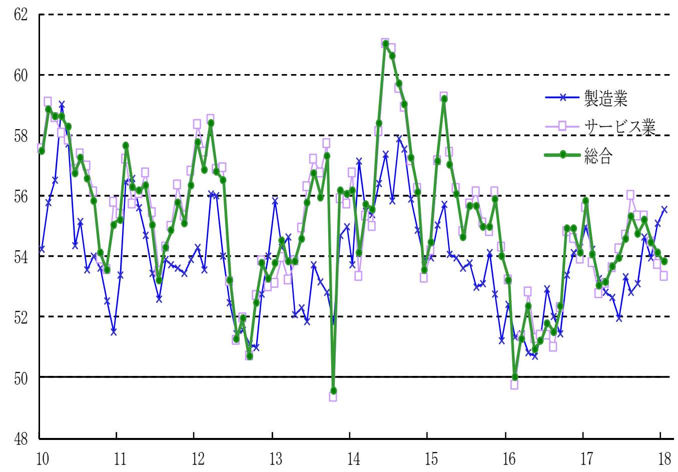
総合ＰＭＩは１－３月期の堅調な成長を示唆

四半期でみると、総合ＰＭＩは53.8と10－12月期の54.6（７－９月期54.9）から小幅低下にとどまり、比較的高い水準を維持、１－３月期の米国景気が堅調なことを示している。１－３月期の実質ＧＤＰ成長率は前期比年率＋２％台半ばが予想されており、これと整合的な水準となっている。

今後もドル高（水準）や中国経済の長期的な減速傾向など需要の伸びを抑制する要因が残存するもとで、雇用・所得の増加や資産価格の上昇等による個人消費の拡大、企業業績の改善などに伴う設備投資の増加を背景に、米景気の堅調さが持続するとみられ、ＰＭＩは当面現状程度の水準を維持すると予想される。なお、１月のＩＳＭ製造業景気指数は12月の59.7から小幅低下すると見込まれる。

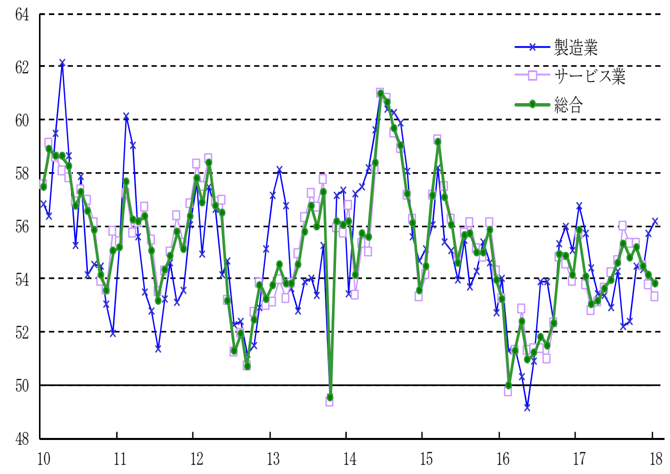
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

（図表）米国購買担当者指数（PMI）の推移



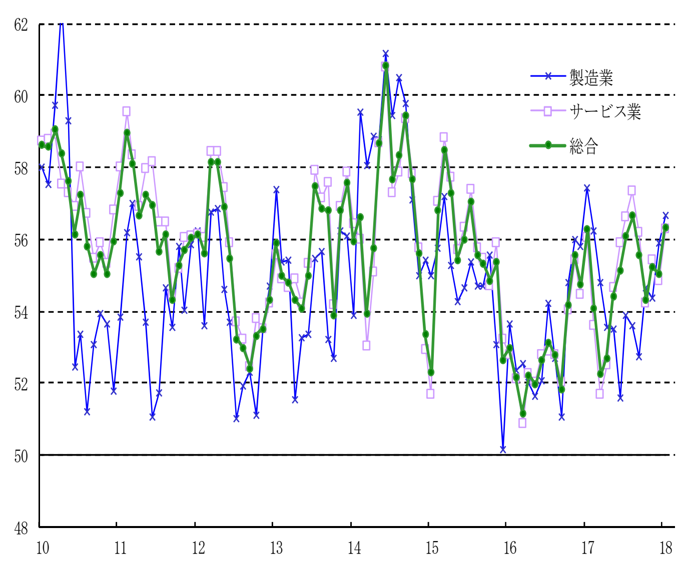
（出所））IHS Markit

（図表）米国生産・活動指数の推移



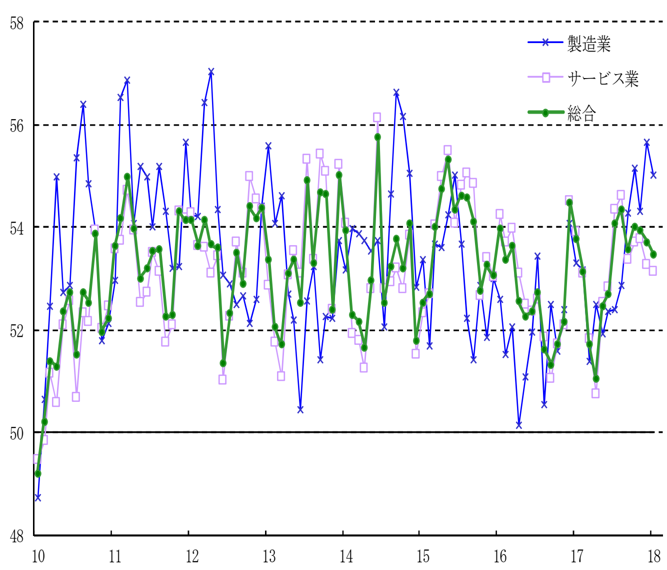
（出所））IHS Markit

（図表）米国新規受注指数（PMI）の推移



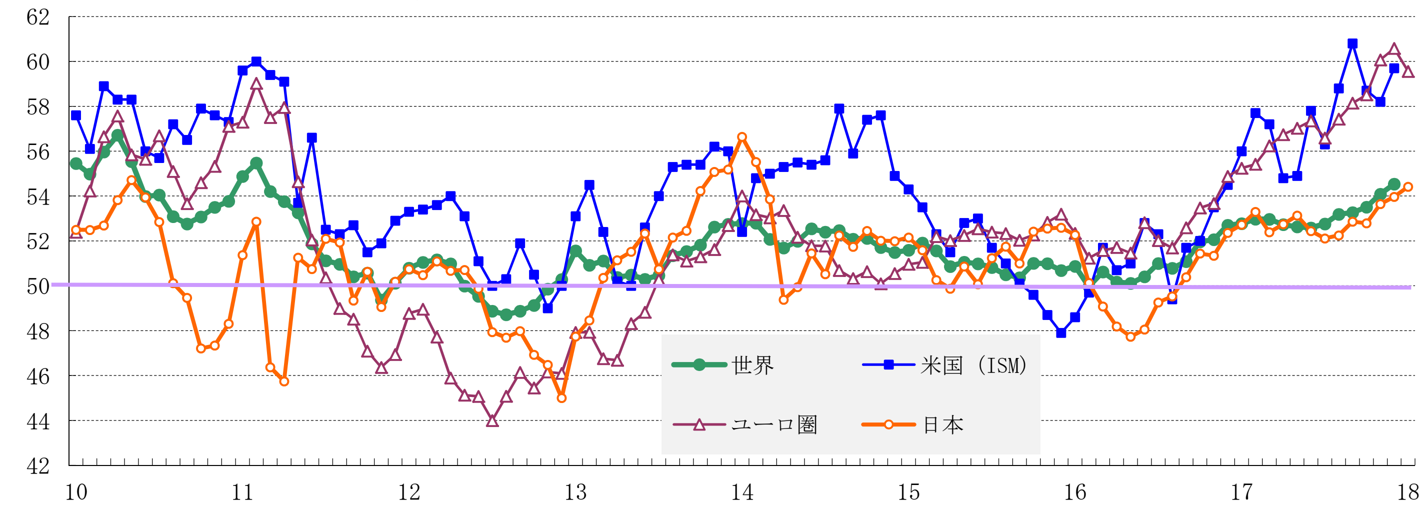
（出所））IHS Markit

（図表）米国雇用指数（PMI）の推移



（出所））IHS Markit

製造業ＰＭＩ（世界と主要先進国）



（出所）ISM、IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。